

第 14 回 周南市スマートシティ推進協議会 議事要旨

■日 時：令和 7 年 12 月 23 日（火）13:30～14:55

■場 所：周南市役所 庁議室

■出席者：下表のとおり

所属・団体名	役職	氏名	区分
東京大学大学院 工学系研究科	教授	羽藤 英二	学識経験者
周南公立大学 情報科学部	准教授	児玉 満	
周南公立大学 経済経営学部	講師	赤木 真由	
徳山工業高等専門学校 情報電子工学科	准教授	柳澤 秀明	
筑波大学 システム情報系	准教授	浦田 淳司	
徳山商工会議所	指導課主任	船井 辰郎	関係団体 を代表する者
周南市社会福祉協議会	業務課地域福祉係長	竹重 紀代美	
周南市スポーツ協会	主任	守田 真希	
周南市コミュニティ推進連絡協議会		黒神 充久	コミュニティ組織 を代表する者
周南市コミュニティ推進連絡協議会		岩崎 真之介	
山口県企画部デジタル推進局	デジタル統括監	田中 貴光	オブザーバー

■配付資料

1. 第 14 回周南市スマートシティ推進協議会配席図
2. 周南市スマートシティ推進協議会委員名簿
3. 第 14 回周南市スマートシティ推進協議会資料
 - 資料 1 今年度の市の取組について
 - 資料 2 周南スマートシティデザインラボについて

■要 旨

1. 開会

(事務局)

- ・ 本日は、委員総数 10 名中 10 名の出席をいただいておりますので、「周南市スマートシティ推進協議会設置要綱 第 6 条」の規定により、本会議は成立しておりますことを御報告させていただきます。
- ・ 会議の開催にあたり、企画部長の川口より御挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

(事務局 企画部 川口)

- ・ 本日は、大変お忙しいところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。
- ・ また、今回から新たに守田委員、岩崎委員をお迎えし、協議会を開催できることを大変心強く思っております。
- ・ 今回の協議は、「周南スマートシティデザインラボ」に関することを議題としております。
- ・ このデザインラボは私も大変期待しており、赤木委員、浦田委員のお二人にもお手伝いいただきながら進めています。
- ・ 今後、このデザインラボがスムーズに実施できるよう、皆さまの忌憚のない御意見を賜りますようお願いいたしまして、簡単ではございますが御挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

3. 新任委員紹介

(事務局)

- ・ 令和 7 年 10 月 31 日で任期満了となった委員の皆様におかれましては、再任の方も含めて 11 月 1 日付で委員に御就任いただきました。
- ・ 周南市スポーツ協会と周南市コミュニティ推進連絡協議会は、交代により今回から守田真希様と岩崎真之介様に委員として御出席いただきます。
- ・ 是非、順番に一言ずつ御挨拶いただきたいと思っております。

(委員)

(順番に挨拶)

4. 会長および副会長の選任

(事務局)

- ・ 会長と副会長の選出を行います。

- ・ 周南市スマートシティ推進協議会設置要綱第5条の規定により、当協議会の会長及び副会長は、委員の互選によって定めることとしております。
- ・ まず、会長についてですが、事務局としては、これまでに引き続き羽藤委員に会長をお願いしたいと考えておりますが、御意見のある方はいらっしゃいますか。

(羽藤委員)

(挨拶)

(事務局)

- ・ 次に、副会長の選出を行います。
- ・ 副会長についても、事務局としては、これまでに引き続き児玉委員をお願いしたいと考えておりますが、御意見のある方はいらっしゃいますか。

(委員)

(挨拶)

5. 議題

(会長)

- ・ それでは議事に入りたいと思います。まず、「今年度の市の取組について」、事務局から説明してください。

(事務局)

(今年度の市の取組について説明)

(会長)

- ・ ただいまの説明内容について、質問等のある方はいらっしゃいますか。

(オブザーバー)

- ・ 自動運転EVバスについて補足します。
- ・ 先週の金曜日に事業が終了しました。運転区間の中でどれだけ自動運転ができるかという実施率は、昨年度は約70パーセントでした。
- ・ 交差点の信号が自動運転ではなく手動の運行であることが課題でしたが、今年度は信号とバスの連携が実現し、90パーセント以上を自動運転で実施できました。昨年度と比べて一歩進んだ自動運転の実証ができました。
- ・ 利用者アンケートも昨年度同様に好評いただきました。
- ・ 来年度以降も周南市と連携しながら日本の課題である運転手不足の解消等に向けて引き続き検討していきたいと思っております。

(会長)

- ・ 運転手不足解消に向けてということなので、最終的に運転手のいない状態を目指しているということで理解して良いか。

(オブザーバー)

- ・ 今回の実証結果を踏まえてレベル4の申請に向けた対応をしていきます。

(会長)

- ・ 全国各地でレベル4の実証に取り組んでいると思いますし積極的にやっていくべきだと思います。
- ・ コストもかかりますし、故障などもありますので自治体としての見極めを行いながら進められるといいと思います。

(委員)

- ・ 今年度は90パーセントを超える自動運転の実施率とのことでしたが、残りの課題はなんですか。

(オブザーバー)

- ・ 路上駐車回避に今年度実現したものの、車線を越えての回避は技術的に実現できず、同一車線内での回避を実施しました。
- ・ 二車線以上ある交差点を右折する際の障害物の判別は、既存の信号連携だけでは足りない部分があるので、路車協調のシステムを今後検討していかなければなりません。

(委員)

- ・ 運転手不足の課題があったが、移動手段の確保も地域の課題であり、この自動運転が地域課題を解決するようなものに繋がれば良いと思います。

(会長)

- ・ 今は実証的に今回のルートで運行しましたが、移動手段の確保という点では他にも有効な路線があると思いますので見極めながら進めていただきたいと思います。

(委員)

- ・ 中学校の部活動の地域移行が来年度に控えており、保護者から移動について課題の声を聞いています。
- ・ 今後、運転の範囲が広がることで、中山間地域や公共交通機関のない地域の子供たちがこのようなバスを使ってスポーツ活動ができるようになっていけばいいと思います。

(会長)

- 子育てにおいて送り迎えは負担になっており、必ずしも自動走行だけではないと思っていますので、こうした課題をスマートシティデザインラボの中でも議論していけるといいと思います。

(委員)

- 市公式 LINE の拡充がありますが、普通に生活するレベルの市民には、この公式 LINE が認知されていないと思うので、もっと広める方策を考えた方がいいと思います。
- LINE だとさまざまな通知の中に埋もれてしまいそうだが、なぜアプリじゃなくて LINE なのかということも気になります。
- キャッシュレス決済は、お店では使えるけど駐車場では使えないといったように、一体となったキャッシュレス化が進んでいないように思います。やるのであれば一体でキャッシュレスを進めた方がまち全体としてのキャッシュレス化が進む印象があります。

(会長)

- アプリについては協議会の中でも議論しており、入れてしまえば多くの充実した機能を使用できますが、一方で、新しいアプリだとインストールのハードルがあります。それに比べ、LINE は普及率が高いため新たに開発するコストがかからないという点があります。
- 委員の御指摘のとおり公式 LINE の認知度が低いようなので、あらゆるところで広報を行うことが重要です。
- キャッシュレス決済についても御指摘のとおりと思いますが、公共交通や公共施設の決済をいかに自動化していくかを検討していく必要があると思います。

(事務局)

- 公式 LINE については今回の機能拡充に伴い、さまざまなメニューの追加を予定しています。市民のみなさまに周知できる段階になりましたら、市広報等を通じて積極的に周知を行っていききたいと思います。
- キャッシュレスについては、今御指摘いただいた内容に関して具体的な検討ができていない状況にありませんが、市では、市民課の窓口のキャッシュレス化をしているところです。今年度は課税課や総合支所（新南陽・熊毛）においても同様のキャッシュレス化を進める予定です。
- 利用の実績を積み重ねながら、キャッシュレスについては、考えていきたいと思っています。

(会長)

- 高齢の方などキャッシュレスを使ったことがない方からするとハードルが高いと思いますので、講習会などの活動を地道にやっていくことがキャッシュレスの浸透に効果があると思いますので是非お考えください。

(委員)

- 自動運転EVバスは、去年も今年も乗車しました。驚いたのは、AI コンシェルジュが子供ともスムーズな会話ができていることです。
- こういったバスはコミュニティバスで使われることもあると思いますが、例えば年配の方がここで会話ができれば楽しいと感じると思います。
- 今後の目標はレベル 4 の実現になると思いますが、それ以外の展開についても来年以降楽しみにしています。

(会長)

- 全国の自治体でも市役所の受付業務をAIにする実験等を行っています。フロントヤード業務などいろいろなところでAI コンシェルジュなどを活用してより効率化しつつ、いろんな人とのタッチポイントを作っていけるとと思いますので、一丸となってやっていけるように引き続き御検討ください。

(委員)

- 訪問型スマホ教室は定員 12 組に対し 12 組以上の応募があったようなので需要があると思いますので広めていければいいと思います。高齢者にとっては行政が主催する信頼感がありますので、訪問型に限らず展開していただけるといいと思います。

(事務局)

- デジタルデバイド対策としては、今回の訪問型のスマホ教室のほかにも集合型のスマホ教室なども市民センター等で実施しています。そうした事業と今回の事業を比較検討しながら、今後の展開について検討してまいります。

(委員)

- 今回の自動運転EVバスやスマホ教室についても告知が足りないと感じています。どういった告知に取り組んでいるか教えてください。

(事務局)

- 一般的な告知として、市ホームページ、市公式 SNS、市広報などを活用して周知しています。その他にも、内容に応じてあらゆる機会や媒体を活用した周知を行っています。

(委員)

- 部活動の地域移行の話は、市役所の研修の中でも取り上げたテーマで、その中で移動の話も出ました。放課後の移動がハードルとなって部活ができなくなるのではないかという不安の声もあったので、今回の自動運転の取組がいろんな形で周南市の中で広まってくるといいと感じました。

- ・ また、子育て世帯の方にとっては、移動でもありアトラクションでもあると思っています。元々周南市では駅から動物園までちょい乗りバスが走っていると思いますが、子育て世帯にインタビューしてみると、移動手段というより子供がバスに乗ることを楽しんでいるようでした。今回の自動運転EVバスはそういった観点で子供たちにも人気があったものと感じました。

(会長)

- ・ 地元出身の人がなぜ都会に出ないで地元に残るのかということ質問したときに、部活動の人間関係が好きで残りたい人が多いという話を聞いたことがあります。
- ・ 部活動を地域に移行していく時に、移動手段がないことで部活に参加することを諦めてしまう子供がいるとしたら可哀想なことです。そういうところをスマートシティで解決していければモデルになっていけるとと思いますので、定住も含めてかなり広い効果があると思いますので広い視点で検討していただきたいと思います。

(委員)

- ・ 市の取組も進んできていいと思いますし、自動運転も夜の運行もできるようになり自動運転実施率も90パーセント以上ということで非常に面白いと思いました。スマホ教室についてもデジタルデバイトの解消に向けて今後も継続していただきたいと思います。
- ・ 着手済の市の取組のうち、「防災DXの推進」と「子育て支援施策情報発信のサブサイト改修」の進捗はどのようなものですか。

(事務局)

- ・ 「防災DXの推進」は、現在事業者との調整を進めており、令和8年1月を目途にシステムを構築し、今年度中に試験運用を行う予定としています。
- ・ 「子育て支援施策情報発信のサブサイト改修」は、現在システム構築やページ移行作業を行っており、令和8年1月中に動作確認を行った上で公開の予定です。

(会長)

- ・ 次に、「周南スマートシティデザインラボ」について、事務局から説明してください。

(事務局)

(周南スマートシティデザインラボについて説明)

(会長)

- ・ まずは、委員から追加のコメントがあればお願いします。

(委員)

- ・ 多様な人が参加するのがデザインラボの特徴なのですが、進めていく中でそのメンバーを活かせるかがチームの進行に影響が出ると感じています。
- ・ 他の類似の課題解決をするプログラムとの違いとして、今回は周南公立大学に委託いただいているということもあり、大学生が全チームに入っているということです。どう大学生のモチベーションを引き出してチームを作っていくかということも課題になる部分と気づきました。
- ・ 中間発表以降の各チームの進捗を少し補足します。
- ・ 旧市長公舎の有効活用チームは、自分たちで価値があると思う部分をチラシにした検証を行いました、それが本当に価値かどうか検証をしている段階です。具体的には、事業者、子育てサークル、大学のサークルなどのコミュニティをターゲットにして取り組んでいます。
- ・ ウォークアブルチームは資料にあるイベントの出店のほか、つい先日の周南冬のツリーまつりにおいても出店を行いました。憩える場所であり、目的地になるような場所を作れないかという検討をしており、イベントを通じて自分たちの活動を知ってもらうことで繋がりを作りたいと考えています。また、イベント時には家族連れの方とたくさん話をして徳山駅前のニーズの調査も行いました。
- ・ 公園チームは、中間発表時点ではメタバースというキャッチーなものを取り上げましたが、現在は実際に解決したい問題の深堀をしています。公園チームも家族連れをターゲットにすることになり、月に1回定期的に代々木公園でライトなイベントを開催することになっています。
- ・ それによってコミュニティが形成されるといいのではないかという話になっており、月に1回公園に行けば子供も遊べて子育て世帯と交流できる場があるという状態を目指して取り組んでいます。

(委員)

- ・ 私はテーマ1の旧市長公舎の有効活用に主に関わっています。
- ・ 旧市長公舎は用途地域や耐震性、駐車場の問題などがあり使いづらさもありますが、少しでも多くの方に認知してもらいたいということで、懸命に取り組んでいるところです。
- ・ 近隣の市民センターの稼働率も非常に高いということで、それと何が違うのかを考えた時に旧市長公舎の建物の良さや落ち着きがある場所であると考え、それを魅せていく必要があるということで、写真家の方に写真を撮っていただくなどPR用の素材を作ろうとしています。
- ・ プロトタイプで気づいた貸し出しの手続きの煩雑さの解消に向けては、チャットボットのようなものを使って使い方等の説明をできるようにできないか、また、物理的な鍵のやり取りではなくスマートキーが導入できないかなどの検討もしています。スマ

ートキーについては、現状は施設内にWi-Fiがないのでどうしようもないということもあり、Wi-Fiがあると活用の幅も広がると思っています。

(会長)

- ・ お二方からの説明も含めて、このデザインラボの周南市らしい独創的な活動について委員のみなさまから御意見ありますか。
- ・ それでは順番に質問や意見を伺っていただけたらと思いますので、まずは副会長からよろしくをお願いします。

(副会長)

- ・ 取組としてはとても面白く、上手くいけばいろいろなことができると思っています。
- ・ 旧市長公舎の有効活用については、Wi-Fiの整備等もうまくいけば進んでいくと思います。
- ・ ウォークابلで憩える徳山駅周辺のテーマについては、まちの人を巻き込むという考えには至っていないのでしょうか。家族連れに絞ったようですが、そもそもそこに住んでいる人たちも関連があるので交えていくと面白いのかなと思いました。
- ・ 公園の利活用促進のテーマについては、見える化の後にいきなりメタバースにいったのが疑問でした。市内に小さな公園がたくさんありますので、そこをどう活用していくかという流れになればいいと思います。
- ・ 方向的に違う方向を向いているのではないかと思ったときに修正するような役割の人はいますか。

(委員)

- ・ 公園チームは、中間発表以降かなり軌道修正をかけているところです。中間発表の時には、公園をメタバースで再現してみたいという方がいらっしやっただため、一旦やってみようということで実施したという背景があります。市内の公園には、公園花とみどり課で直接管理している公園と、指定管理に出している公園があり、それぞれをどう活用できるかという検討を進めていましたが、現時点では主に指定管理者がいる代々木公園を使用した活動をしています。この代々木公園でコミュニティの創出が進んでいけば、他の公園にも展開していける取組になるのではないかと思います。
- ・ ウォークابلチームは、ターゲットを駅周辺に住んでいる子育て世帯と設定しています。まちの人にインタビューをすると、駅周辺は散歩をするというより通過する場所と答える方が多く、子供が立ち寄れる場所が少ないという指摘もありましたので、子育て世帯が歩いて、かつ憩える場所を作っていけるといいのではないかという方向で検討をしています。

(委員)

- ・ サポートは伴走者という形で各グループに1名ずつ専門家がついており、適宜軌道修正等も行っております。

(会長)

- ・ 多少変な案でもいいのではないかと思います。自由な発言ができることと、発言したことを大きなことではなくても自分たちが責任を引き受けて行動に繋げるというようないろいろな方向性があると思います。富山のスケッチラボでも大きなことではなくて自分たちでできることをやろうとしていますし、種火がともればそれを支援する人が集まってくるので、そのマッチングの仕組みの部分もデザインしていき、これから成功や失敗も出てくる中でみなさまと議論をしながら広げていければいいと思います。

(委員)

- ・ スマートキー化という話があったのでそれに関連して、スポーツ開放制度での体育館の外部貸しの際の鍵の受け渡しについて ICT 化は検討されていますか。

(事務局)

- ・ スポーツ開放制度について、部活動の地域移行に伴い来年以降施設使用のオンライン申請開始に向けたシステムを構築しておりますが、スマートキーの検討までは進めていないと認識しています。他市での事例もありますので、本市としても利便性も含めて検討する必要があるのではないかと考えています。

(委員)

- ・ 旧市長公舎については見学の機会をいただきました。商工会議所の立場で見た時に、施設の制限が多いと思いました。今年度商工会議所として市へ要望もしましたが、この建物は飲酒が制限されているなど、おもてなしをする際に使いづらいという意見があったことから、今年度、徳山商工会議所から市に利用規制の緩和を求める要望を出しました。
- ・ 実際に見学して思ったのは、縁側もあり、おじいちゃんおばあちゃんの家を思い出すような感覚があったものの、貴重な建物であり、気軽に使うには気が引けるころもありましたし、飲食店等を開くにしても備えてあるのは家庭用のキッチンなのでそこまで本格的な展開は難しいと思いました。
- ・ 商工会議所では開業をしたいという相談やお店を出したいという相談がありますので、そうした方々による物販などのチャレンジショップを実施していくという活用はできると思いました。
- ・ 旧市長公舎については、市民が存在を知らないのが現状だと思います。こういう歴史

的建造物は見たいと思ったときに、建物の歴史的な背景というものがあって付加価値が出るものだと思いますので、学校教育の中で幼いころから周知していくことが大事だと思います。

- ・ ウォークابلで憩える徳山駅周辺のテーマについては、中心市街地の活性化ということではかなり大事なテーマであると捉えています。徳山商工会議所には、中心市街地活性化協議会という協議体の事務局がございますように、いろいろな商工活動の中でも中心市街地のテーマは出てくるところです。このテーマでは、さまざまな団体やこのエリアの商店、市の中でも中心市街地活性化推進課や商工振興課などいろんな方が絡むと思いますので、様々な方面の方に活動を知っていただく必要もあると思います。
- ・ 徳山駅前イベントをやるとたくさんの人が集まり賑やかになります。そういった意味ではポテンシャルがあると思いますので、各団体や企業と連携しながら取り組む必要があると思いました。
- ・ 公園の利活用促進のテーマにあった「わくわくあそびパーク」のようなイベント情報は、子を持つ親としてはもっと周知していただきたいと思います。
- ・ デザインラボの全般的な感想としては、将来的に地域課題の解決を見据えるのであれば、デザインラボ自体を強固なものにする必要があると思います。まちのために活動をしたいが関わり方がわからないというような方に届くようにデザインラボのプラットフォームの存在をもっと周知していく必要があると思います。

(委員)

- ・ 旧市長公舎に関しては、まずは建物の歴史などを知りたいと思います。市長の変遷やその当時の政策、建物やその周辺環境の変化について学びながらこの建物を見ることができれば利用する価値が上がると思います。
- ・ また、都会のスターバックスではコーヒーを買うとレシートにトイレの鍵の番号が書いてあり、毎日トイレの鍵番号が変わります。購入していない人にトイレを使われないようにするものです。鍵の貸し出し手続きの簡略化においてはこういう方法もあると思いました。
- ・ ウォークابلについては、イベントがあると駅前にたくさんの人が集まるので間違いなくこのまちにはポテンシャルがあると思います。面白い仕掛けがあれば万単位の人が集まりますので人の流れはできると思います。
- ・ 公園については、地域住民の高齢化が進むと雑木林になってしまうのが現状だと思います。年に一回地域住民で草刈りをしたところで子供が安全に遊べて走り回れるような状況ではない公園があることも現状です。整備も合わせてしっかりやれると親も安心して公園に遊びに行かせることもできますので公園の利活用が進むと思います。

(委員)

- ・ 遠石地区にも万葉の森という貴重な樹木がたくさん植えられている公園がありますが、この公園の有効活用ができていないという現状がございます。この公園はみどりの会というボランティアグループが定期的な清掃や、樹木に樹種を記載したネームプレートを貼るなど、公園の管理を行ってくださっています。是非、万葉の森も公園の利活用の促進の検討の中に入れていただきたいと思います。

(委員)

- ・ 先ほどスマートキーの件を伺いましたが、当協会においても体育館の貸館業務を行っており、管理をしている側からしても手間になることがありますし、分かりにくいところもまだまだありますので、旧市長公舎の貸館においていいシステムができましたら市内の体育館をはじめとする施設の貸館業務にも波及すると思われました。
- ・ 公園の利活用については、中学校の部活動の地域展開が控えている中で、幼児期の運動習慣において体を動かすことが楽しいと思えないとその後の競技スポーツに繋がっていかないということから、まずは体を動かすことを楽しいと思ってもらえる環境づくりが必要と考えています。しかし、公園で遊ぶにしても夏場は猛暑が続き、外で遊ばせたいが天候上遊ばせられないという保護者の声も聞きます。夏場の時期でも安心安全に遊べるような、例えば屋根付きのベンチや遊具などもあり、また、毎月決まった日に公園に行けば大学生と一緒に遊べるなど、誰かと繋がれるような空間になればいいと思われました。

(委員)

- ・ ウォーカーブルについては、対象が駅周辺に住む子育て世帯とのことでしたが、その地域に住んでいる世代の人とのふれあいができるようなことも考えていただきたいと思います。
- ・ また、障害のあるお子さんをお持ちの子育て世帯のことも視点に入れていただき、物理的なバリアフリーはもちろんのことですが、心のバリアフリーの視点も持っていただきたいと思います。そういった子供たちが落ち着ける場所としてベンチを備えるだとか、当事者の意見も反映していただけるとありがたいと思います。

(会長)

- ・ 以上で、本日の議事を終了します。委員の皆様、議事進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。
- ・ それでは、進行を事務局へ返します。

(事務局)

- ・ 本日は御多用のところ御出席いただきありがとうございました。また、各取組においては、皆様には多大な御協力をいただきまして誠にありがとうございます。今後も引き続き、御理解御協力のほどよろしく願いいたします。
- ・ 次回、第15回の周南市スマートシティ推進協議会については、正式な日時が確定次第御連絡いたしますので、御出席のほどよろしく願いいたします。
- ・ また、本日の議題にもございました、周南スマートシティデザインラボにつきましては、次回最終発表を予定しております。詳細は改めて御案内を差し上げますが、是非御参加いただけますと幸いです。

6. 閉会

(事務局)

- ・ 以上で第14回周南市スマートシティ推進協議会を閉会します。

以上